※令和４年度以降入学生用

学校番号	1003

令和８年度　理科

教科	理科	科目	(学)看医理科	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	使用しない						
副教材等	使用しない						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

物理・化学・生物の分野より内容を絞り，進学後に充実した学習ができるよう，必要となる理科の知識を定着させるため指導と演習を行います。また，実験も必要に応じて行い，チームで動く力を身につけることも目標とします。

2　学習の到達目標

(1)看護・医療系の学校へ進学した際に必要となる基礎知識や技能を習得する。
(2)日常生活や社会の中で起こっている看護・医療系の事象を科学的に考察し、自ら考えを導き出して表現する能力を養う。
(3)物理・化学・生物の分野で学習する内容が医療や看護の分野でどのように役立っているのか関連づけることができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日常生活や医療との関連を図りながら物質とその変化や物理現象、からだのしくみについて、基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身に付けている。 また、観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、技能を身に付けている。	からだのしくみや医療との関連を図りながら物質とその変化や物理現象などから問題を見いだし、探究する課程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	からだのしくみや医療との関連を図りながら物質とその変化や現象に関心や探究心をもち、科学的な見方や考え方を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	化学分野	物質量・モル濃度・質量パーセント濃度 ボイルの法則・シャルルの法則・気体の状態方程式 浸透圧・凝固点降下・沸点上昇・蒸気圧降下 医薬品の化学	a:化学物質の量的関係や様々な化学反応について基本的知識を理解している。 b: 化学物質の量的関係や様々な化学反応について科学的に考察し、的確に表現することができる。 ｃ： 化学物質の量的関係や様々な化学反応について自ら発表を行い、説明できる。	定期考査	定期考査 ワークシート レポート 振り返り	ノート ワークシート レポート 振り返り
2学期	物理分野	速度と加速度・静力学 圧力 浮力とアルキメデスの法則 てこの原理と力のモーメント	a:物質の運動の仕組みについて基本的知識を理解している。 b: 物質の運動の仕組みについて科学的に考察し、的確に表現することができる。 ｃ： 物質の運動の仕組みについて自ら発表を行い、説明できる。	定期考査	定期考査 ワークシート レポート 振り返り	ノート ワークシート レポート 振り返り
3学期	生物分野	生物の体内環境 アミノ酸とタンパク質 DNA と RNA	a:生物を構成する物質とその生体内での働きについて基本的知識を理解している。 b: 生物を構成する物質とその生体内での働きについて科学的に考察し、的確に表現することができる。 ｃ： 生物を構成する物質とその生体内での働きについて自ら発表を行い、説明できる。	定期考査	定期考査 ワークシート レポート 振り返り	ノート ワークシート レポート 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度